

【リポジトリ・著作権・支援環境】

3.1. 教材等（教育用掛図・古地図・大学年史資料）の電子化とその活用

大阪教育大学附属図書館

system2@lib.osaka-kyoiku.ac.jp

1 教材等の電子化後の利用状況と今年度の事業概要

平成 21 年 4 月に、本学附属図書館が所蔵する師範学校時代使用の教育用掛図 18 点、および江戸時代から明治初期の大阪図を中心とした古地図 35 点を電子化し、大阪教育大学リポジトリ中のデジタルコレクションとして公開した。これらの電子画像に対するアクセスは、平成 22 年 1 月までの 10 ヶ月間に 14,460 回となり、他のリポジトリ登録コンテンツ（紀要論文など）と比べても社会的に大きな反響があった。特に古地図については、出版社等からの問い合わせがかなりあり、本学の許諾を得て電子画像から起こした図が出版物に掲載された。これらの事例から、過去に作成された教育資料が、現代においても広く求められており、高い利用価値をもつことが確認できた。また、ポーンデジタル（作成時にすでにデジタルの形態のもの）として作成されたデジタル教材だけでなく、これまで埋もれていた過去の教材の電子化が、資料価値の再発見と活用につながる有効な方策であることがわかった。

このような成果から、附属図書館は所蔵する教材（教育用資料）の電子化公開事業を今年度も継続することとし、平成 21 年度に次のような事業を実施した。

①教授用掛図 43 点の電子化、およびリポジトリによる公開のための権利関係確認作業②昨年度電子化した師範学校時代使用の教科書 28 点および当時の本学年史資料 10 点についてのリポジトリ公開のための権利関係確認作業

上記①②の電子化資料については、平成 22 年度にリポジトリにて公開する予定である。

2 デジタル教材の授業活用例

上記②の本学年史資料を用いて資料翻刻や歴史的背景の理解、資料中の個人情報保護などを学ぶ授業（教育史演習Ⅱ）が、教員養成課程学校教育講座二井仁美准教授との連携により実施された。（詳細報告は『デジタル教材（電子化大学年史資料）による授業報告』）この事例は、授業用教材の電子化により、歴史的資料の劣化防止と多数の学生の利用という相反する課題を解決できる可能性を示しており、デジタル教材の大学教育への活用の方向性の一つを示唆している。

3 大阪教育大学リポジトリとの関係と今後の方針

今年度当初のデジタル教材開発ワーキンググループ会議において、大阪教育大学リポジトリを、当プロジェクトの成果を保障するバックアップシステムとして位置付けることが確認された。今後は、作成されたデジタル教材の複製物を順次リポジトリ登録し、以降に改訂版

が作成されればその都度改訂版を加えるとともに、旧版についても削除せずに保存していく予定である。そのため、画面表示のコンパクト化等の機能高度化や、日付による自動公開設定などの機能追加等、リポジトリシステムの改修を行った。今年度の成果を基に、本学所蔵資料を引き続き電子化・公開し、利用状況等を分析しながら、デジタル教材のさらなる活用方法を模索していきたいと考えている。

3.2. デジタル教材（電子化大学年史資料）による授業報告

大阪府池田師範学校文書を用いた 2009 年度授業「教育史演習Ⅱ」

学校教育講座 二井仁美

nidog@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

はじめに

2008 年度において電子化されデジタル教材となった本学附属図書館所蔵の大学年史資料を用いて、今年度、実施した教育学専攻学生を受講者とする「教育史演習Ⅱ」の通年授業での取り組みとその成果について報告する。

1 授業の目的

教育史演習Ⅱの授業は、シラバスにおいて次の四点を到達目標とすることを挙げた。

第一に、「戦争」「教師」「学校」に関わる歴史について先行研究を検証すること、第二に、「戦争」「教師」「学校」に関わる問題について、各自が研究課題を設定し、関係史料を渉猟し分析すること、第三に、学校をはじめとする教育機関が所蔵する史料の扱い方の基本を修得すること、第四に、各自が設定した研究課題に即して、研究論文を執筆することである。

2 授業「教育史演習Ⅱ」受講者とデジタル教材利用の経過

受講者のうち、昨年度の教育史演習Ⅰにおいて、大阪教育大学所蔵の大学年史資料「週番日誌 尼子小隊」の翻刻作業に携わった学生達は、共同での研究テーマとして「尼子小隊」とは何かということを最終レポートのテーマに設定した。

「週番日誌 尼子小隊」は、大阪府池田師範学校の学校報国隊の1つであった「尼子小隊」の日誌であり、1943年9月から翌44年6月までの記述が残されている。

学生達は、第一に、尼子小隊を理解するための前段階として、師範学校制度史および大阪府池田師範学校の歴史についてその概要を理解するとともに、太平洋戦時下における師範学校生の学徒動員、池田師範学校の学徒動員の概要について、先行研究を検討した。第二に、師範学校制度、学徒動員の政策展開、池田師範学校における学徒動員の動向をふまえたうえで、彼女たちが昨年度、翻刻作業をおこなった「尼子小隊」とは何かということについて検討しながら、学校報告隊としての師範学校生の生活に迫ることとなった。

テーマ設定からレポート作成にいたるまで、受講生の主体的活動を中心に授業は進められた。

3 2009年度「教育史演習Ⅱ」の授業成果

学生達は、「大阪教育大学附属図書館所蔵文書 大阪府池田師範学校『週番日誌 尼子小隊』— 資料の概要と解説 —」にその成果をまとめた。

同報告書には、「この簿冊〔週番日誌 尼子小隊〕を一読する限り、師範学校の生徒が太平洋戦争下に記したものであり、そこには心身共に戦争を中心に精進していく生活が描かれていることが窺えた。簿冊を翻刻し、内容が明確になるにつれて、戦時下の師範学校の生徒の実態が推測され、教育史を専攻している我々にとって、非常に興味深いものとなっていった」と記されているように、検討をとおして始めて学校報告隊としての師範学校生の生活を知り、そこに学生達は特別な関心を寄せていくにいたった。当時の師範学校生達の様子に若者らしい自分たちに重なるものを見出す一方で、自分たちとは全く異なる時代の師範学校生の生活に深い関心が寄せられ、同時に「尼子」が何を意味するのか、週番組織とはどのようなものなのか、等の疑問を解くべく、附属図書館とともに学外の図書館にも繁く通いながら調査が進められた。とりわけ昨年度、デジタル化された「教官会議録」を分析するなかで、「尼子」は池田師範学校の教官尼子成人の名によるものであることや、週番組織や動員中の動向についてその特徴が明らかとされた。

おわりに

学生達は、未熟ではあるものの自分たちの取り組んだ「週番日誌 尼子小隊」がリポジトリにおいて公開され、戦時下の師範学校生の様子や本学の歴史の一端に触れる契機となることを一つの励みとしながら、本授業に取り組んだ。昨年度のデジタル化資料「週番日誌 尼子小隊」や「教官会議録」は守られるべき個人情報も含まれているためそのまま公開することにはなじまないとの見解は受講者においても共有され、史料の公開と史料の利用者に課せられている倫理に関する教育が、これらのデジタル化された大学年史資料の分析と検討を通して実践的に深めることができたのも本授業の成果の一つである。